

徳島大学附属図書館の未来を語る

薬学部同窓会「薬友会」鳥取会長に図書館をご見学いただき、図書館の未来について話し合いました。

図書館の学習環境

吉本 図書館の本館と蔵本分館をご覧いただきましたが、印象はいかがでしょう。

鳥取 非常に明るい感じで活気がありますし、閲覧室は一日中過ごせるように心地良く、恵まれた環境の中で学生は幸せだと思います。図書館というのは大学の魅力の一つで、大学を選ぶ時のポイントだと思います。



薬学部同窓会「薬友会」会長
鳥取 桂 (とっとりかつら)
(元大塚製薬常務執行役員)

吉本 図書館本館は平成21年、分館は24年に改修し、学習環境を改善してさまざまな取り組みを行ってきました。例えば、本館1階ではSSS(スタディ・サポート・スペース)

コンテンツ制作などの面で図書館が協力できると良いですね。

鳥取 そういうことができるのが図書館かなと思いますし、全学の共通のコアになるころだと思います。

ディスカッションで修羅場の疑似体験を学生のつなぐ

吉本 図書館にはグループで学習できる部屋が、本館には2室、分館には6室あり、ディスカッションしながら学習する環境も整えています。企業の中で色々な立場で活躍された鳥取さんから見ると、企業が求める人材を育てるために図書館は何をすべきでしょうか。

鳥取 最近の学生は全般的におとなしくなってきたので、自分から意見を発することが少ないようですので、大学の中で修羅場のような、失敗から這い上がるという経験をさせてほしいと思います。みんなの前で自分の意見を論理立てて述べる、そこから攻撃された時にどう切り返すかということや学べるのが図書館ではないかと思えます。東洋的なディスカッションは、意見と批判が自分に来ると考えますが、西洋的な考えは、意見は別に置いてみながら意見を攻撃する、人間を攻撃するのではなく、というのを聞いたことがあります。

ス)という部屋を設け、数名のボランティア教員等により、物理や数学等の時間を組んで学習相談に応じ、質問に来る学生は自由に出入りできます。SSSは、図書館と共同で運営する学生サークルが直接教員と交渉してボランティアを引き受けていただいています。他大学では見られない

い取り組みだと思っています。

鳥取 補講してくださるようなものですね。ものすごく親切だと思いますし、それを学生が管理しているというのすばらしいですね。
鶴尾 図書館の中にこのような学習相談の場所があると、尋ねやすいと思います。また、最近は学習方法もアクティブ・ラーニングへ

と変わってきましたので、図書館でもこれに対応しています。

吉本 図書館では、1年生ではまず図書館の利用法、それから研究と段階に応じてリテラシー教育を行っています。

鳥取 学生の中にはちょっと背中を押してあげると進めると、いう人もいますので、レポートや論文作成時にリテラシー教育で後押ししてあげるプログラムがあるといいですね。アメリカ等では文章作成訓練システムを充実させている図書



附属図書館長
吉本 勝彦 (よしもとかつひこ)
(大学院医歯薬学研究部 歯学域 教授)

館は人気が高いと聞きますし、また、企業でもサイエンスライティングといった教育プログラムがあります。

吉本 論理的な分かりやすい文章を書くためのアカデミックライティングの教育は、各学部で行っています。ただ指導する人材が必要ですので、図書館も積極的に関わる必要があると思います。

鶴尾 学習環境としては、分館では閉館後も時間外利用ができ、特に試験期は非常に多くの学生が利用しています。また、ネットワーク環境も充実させており、本館55台、分館40台のパソコンの他、WiFi環境も整えています。

鳥取 将来、eラーニングの遠隔授業が進んできたら学生は下宿から一歩も出ないということもあるのでしょうか。

吉本 ICTを活用して授業を行う時に図書館も教員に対してサポートできる立場になれたらいいと思います。著作権処理が必要な



これができるブレインストーミングも上手にできると思いますし、それを引っ張っていく司会のリーダーシップも培われます。

鶴尾 なかなかそのような場に出会うことが少ないと思いますので、そのようなトレーニングの場を作ってあげることが大切ですね。

図書館の地域貢献

吉本 全国の大学でも地域活性化のための取組みが行われており、大学が地域とどう関わるべきかは大きな課題です。図書館は以前から一般開放しており、一般の方が本館では1日平均55人、分館では25人ほど来館されています。
鳥取 一般の方が徳島大学の図書



附属図書館蔵本分館長
鶴尾 吉宏 (つるお よしひろ)
(大学院医歯薬学研究部 医学域 教授)

吉本 当館では徳島市立図書館との連携事業として、市民の方を対象にした「検査値の見方」、「認知症」、「糖尿病」等をテーマにした医療講座を2年前から開催しています。また、学生や地域の医療関係者を対象とした「臨床研究論文の読み方」等のワークショップや、四国遍路等をテーマにした学術講演会を開催しています。

鶴尾 地域の方も図書館で学生と交流してもらえると良いですね。

人と人がつながる交流の場

吉本 本学では予算縮減に対応するために収益を

上げるための取組みを色々行っていますが、図書館でも読み終えた本を提供していただいて、その売り上げを寄附として受け入れる古本募金を行っています。今後、企業から援助をいただけるような関わりを作るといふ点で何か良い方法はあるでしょうか。

鳥取 企業側に何かメリットが無ければ難しいですが、企業にとっても地域貢献というのは大切ですので、地域に根付いた何かがあれば説明しやすいのではないかと思います。人のつながりを作るといふ観点では、もしも余裕があれば、あそこの図書館のコピー機がいよね、と言われるようなカフェを作れると、地域の方も集まる場としていいのではないかと思います。Google本社にもゲームエリアがあるそうですが、人を集めて人と人のぶつかり合いの機会を作る、という効果があるようです。
吉本 図書館が魅力あるイベントを行うことによって、教職員や学生が1日1回でも図書館に立ち寄ってみようと思われようような、交流の場として機能できればいいと思います。本日はありがとうございました。

学習拠点

図書館は本を読むところ…だけじゃない
イマドキの図書館の使い方

「学びサポート企画部」で SSS運営に携わる

理工学部理工学科2年
新免歩（しんめんあゆみ）



私は、大学に入学するまで図書館は本を読むための静かで居心地の良い場所というイメージを持っていました。しかし、大学に入学してから図書館の印象は大きく変わりました。大学の図書館は本を読む、借りるだけでなく大学生の学習をサポートする場所でもあります。カフェテリアやラーニング・コモンズでは、友達と意見を交わしながら授業の課題に取り組んだりしています。他にも1年生の時には、ラーニング・コモンズで外国人留学生とゲームやトークを通して交流するイベントを開催しました。学生がよく利用し、馴染みのある図書館でイベントを開催することで学生は気軽に参加し



学習拠点としての SSSでの学習相談

教養教育院 教授
渡部稔（わたなべみのる）



やすく、また図書館にはいつも学生がいるのでイベントの参加者以外の利用者にもイベントの存在を知ってもらうことができます。私は図書館を、本を読むだけでなく試験勉強から課外活動まで様々なことで利用しています。私にとって図書館は、日々の学習や課外活動のサポートをしてくれるなくてはならない場所です。

SSSは、教員や大学院生がアドバイザーとして図書館1階ピア・サポートルームで学生の学習支援を行う企画です。日々の授業の予習や課題における疑問点、勉強の仕方・レポートの書き方、また学生生活に関わることなど、学生からのさまざまな相談に対して、アドバイザーが対応しています。私の担当は「生物学」。「レポートの書き方」ですが、相談を受けることで学生の疑問点を知ることができ、自分の授業内容の改善にもつながっています。また場所が



図書館です。相談内容に関する図書を紹介できますし、ピア・サポートルームには「レポートの書き方」に関する図書が多数整備されています。私の場合は、学習相談が終わった後でも担当時間の最後まで話をすることもしばしばで、卒業後の進路やTOEIC、英語の論文の読み方などいろいろな相談も受けています。SSSは、学習相談の他にも教員との距離を縮めるいい機会だと思います。

ひとりでも、グループでも 蔵本分館へ！

歯学部 歯学科3年
橋口萌名（はしぐちもえな）



図書館蔵本分館は、学習環境が非常に充実しています。専門書も豊富にあり、テーブル席とブース席が置かれた自習室がいくつかあるので、私はその日の気分や場所をかえて勉強をしています。

基本的には図書館は平日21時、休日17時閉館ですが、時間外利用



登録をしておくことと全日0時までの利用が可能なので、試験期間には丸一日図書館に籠ることもあります。また、個人で学習するための学習室とは別に、グループ学習室も用意されています。テスト勉強となると、友人と教え合いながらの方が効率が良いことも多いので、グループ学習室もよく利用します。グループ学習室は1日3時間まで利用可能なので、1日1回グループ学習室を使って、その他の時間は自習室を利用するという使い方をすることが多いです。

副館長（学習支援担当）からのメッセージ

附属図書館副館長（大学院社会産業理工学研究部社会総合科学域 教授）
依岡隆児（よりおかりゆうじ）



書評ゲーム「ビブリオバトル」による交流会を行った「阿波ビブリオバトルサポーター」と「ライブラリーワークショップ」の学生。会場は図書館のカフェテリア。

学習拠点としての図書館の存在意義はますます高まっています。本附属図書館でも教育支援として、授業サポートナビの整備やSSSのための院生採用、授業などでの図書館講習会の企画運営に取り組んでいます。ぜひこうした学習・教育支援をご活用ください。私も「読書コミュニケーション」などの授業で協力してもらっています。また図書館サポートのための学生サークルがあり、関連

イベント開催などで学習支援に貢献しています。

附属図書館副館長（大学院社会産業理工学研究部理工学域 教授）
武藤裕則（むとうやすのり）



理工系分野では、問題を解きながら専門分野の基礎知識を培う演習科目や、実験室や現場などで実際にデータ取得・整理・分析・考察を行う実験・実習科目が多数設定されています。その予習・復習やレポート作成に、図書館所蔵の参考書や教材、パソコンなどが広く活用されています。また、理工系分野では近年、チームワークやコミュニケーション力が特に重要視されつつあり、グループワーク室はディスカッションやプレゼンテーションの準備をする学生さんの熱気にあふれています。是非積極的に図書館を活用されることを期待しています。

地域の交流拠点

人生100年時代の今、図書館は人と資料、人と人を繋げる知的創造の場へ

大学図書館の地域貢献

徳島大学附属図書館は、広く一般に公開しており、本の貸出、所蔵資料のコピー、文献調査のためのデータベースの利用など、本学の学生や教職員とほぼ変わらないサービスを提供しています。生命科学や工学など、大学ならではの幅広い分野の専門書（約65万冊）や学術雑誌（約2万冊）は、地域の企業の方や学外の研究者、医療従事者、専門学校などの調査研究に大いに活用されています。また、一般の方が参加できるイベント（ビブリオバトルや講演会など）もあり、そこでは学生、教職員と一般の方との自然な交流が生まれています。さらに、地域の読書推進、文化振興を図ることを目的として、平成24年度に徳島市立図書館と、平成28年度に鳴門教育大学、徳島県立図書館、徳島県教育委員会と連携協定を締結しました。この連携により、それぞれの得意分野を活かした利用者サービスが可能となっています。例えば、昨年度、



徳島大学附属図書館で実施した展示会&学術講演会「100年前の四国遍路」。徳島県立図書館、徳島市立図書館では関連図書のリストを作るなど、連携企画を実施しました。

市立図書館で初めて実施した「リユースお宝市」では、市立図書館で処分する資料を学生・教職員に譲渡していただくと共に市立図書館のバックヤードツアーを実施し、大変好評でした。こういった企画の実施は、利用者の方への新しいサービスの創出になると共に、相

互の図書館の活性化にも繋がります。人生100年時代を迎えた今、資料や人との出会いの場、知的創造を生み出す場としての図書館の役割はますます高まっているといえるでしょう。

私流 図書館の使い方



柳 徳宏（やなぎとくひろ）
（図書館利用者）
※大学開放実践センター講座受講生

仕事をリタイア後、大学開放実践センターの講座を受講するようになってから、図書館を利用しています。大学の附属図書館だけに専門的・学術的な本や資料が豊富なことに加えて、蔵書検索やデータベースなどのデジタル化資料も閲覧でき、調べ物に重宝しています。私は、平安時代の古典文学や百人一首、江戸時代の蜂須賀家について調べています。また、学外の一般の人にも貸出がされているので「教養とは何か」という受講講座に必要な本も借りたりします。



学内研究成果の オープン化

誰もが自由に大学の研究成果にアクセスできるようになることで
イノベーションが加速する…そんな時代に図書館ができること

徳島大学機関リポジトリが 果たす役割

徳島大学機関リポジトリは、徳島大学の研究者が発表した研究成果をインターネットを通じて無償公開するシステムです。このように研究成果を無償公開することは「オープンアクセス」と呼ばれています。

一般的に、学術研究成果は「論文」という形で発表され、雑誌等に掲載されることで他の研究者等による活用が可能となります。私たちの社会はその成果の恩恵を受けて発展していますが（LEDなどがよい例ですね）、雑誌等を購入しないと読むことができず、研究の広がりには限られてしまいます。一方、オープンアクセスは、誰でも自由に利用することが可能となるため、研究分野を超えた横断的研究を推進するとともに、非専門家への情報提供による参画を促し、

イノベーションを起こす、という効果が期待されます。電子ジャーナル価格の高騰に対する危機感とも相まって、オープンアクセスの推進は世界的な流れになっていきます。

徳島大学ではこの流れにいち早く対応し、国立大学で4番目という早さで、「徳島大学におけるオープンアクセスに関する方針」を策定しました。

オープンアクセス化された論文はそうでない論文に比べ、他の論文が参考にする率（被引用率）が向上するという報告もあり、大学の研究戦略としても重要な役割を果たします。

図書館ではリポジトリでの研究成果公開にあたって、先生方からの論文データの授受や著作権処理、公開システムのメンテナンスなどのサポートを行っています。論文データを収集・保管し、利用しやすい形で公開することは、学術情

報の流通を円滑にするという意味で、図書や雑誌を扱うのと同様の、大学図書館の本質的な活動です。国内外でも多くの大学がリポジトリを構築している今、学術情報の重要なインフラとして、徳島大学機関リポジトリのさらなる充実を目指しています。

附属図書館の貴重資料



大学院社会産業理工学研究部
社会総合科学域 教授

平井 松午(ひらい しょうご)

附属図書館には図書・雑誌だけでなく、貴重な資料群も所蔵されています。資料群は、①蜂須賀家旧蔵の古地図や「蜂須賀家臣成立書并系図」の貴重資料、②山

西家文書（廻船問屋史料）や布川文庫（医学書）などの寄贈資料、③歴史・郷土史に関する喜田貞吉関係資料・泉山文庫、④各種大型コレクションなどに分類され、図書館ホームページの「貴重資料」・「特殊資料」から概要や目録を検索することができます。

また、附属図書館では貴重資料の電子化も進めていて、図書館ホームページの「近世古地図・絵図コレクション」高精細デジタルアーカイブでは、古地図約50点の高精細画像がネット上で閲覧可能です。「伊能図学習システム」でも、伊能図の針孔が判読できる800dpiという最高レベルの超高精細画像を公開しています。さらに「蜂須賀家臣団家譜史料データベース」では、藩士名から「蜂須賀家臣成立書并系図」のデジタル画像が検索でき、全国の研究者に利用されています。



伊能図学習システムでは、伊能図作成の際に転写の目印とした針穴を確認したり、現在の地図と重ね合わせたりすることができます。

古本募金

徳島大学では平成28年秋から『古本募金』を始めています。これは皆さんが読み終えた本やCDなどをお送りいただき、その売り上げで附属図書館の学生用図書や本学学生の図書関連活動等の充実を図る仕組みです。

引っ越しや部屋の片付けで読み終えた本やCD等を見つけて捨てるには忍びないと思われた時、「そういえば…」と思い出して協力頂ければ幸いです。

詳しくは附属図書館のホームページでご確認ください。
徳島大学古本募金のページ：
<https://www.furuhon-bokin.jp/>
tokushima-u/